

船舶事故調査報告書

平成23年11月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行

事故種類	浸水
発生日時	不明（平成22年7月27日 04時30分ごろ～16時30分ごろの間）
発生場所	宮城県石巻市大須漁港 （概位 北緯38°31.4′ 東経141°32.8′）
事故調査の経過	平成22年11月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三不動丸、14トン MG2-5393（漁船登録番号）、個人所有 16.64m (Lr) × 3.87m × 1.49m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数150、昭和56年12月8日
乗組員等に関する情報	船長 男性 58歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和57年2月25日 免許証交付日 平成19年5月25日 （平成24年12月13日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	主機、発電機、各ポンプ電動機等が濡れ損
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、操業を終え、平成22年7月27日04時30分ごろ大須漁港に帰港し、船長が、本船を離れて休息をとったのち、16時30分ごろ、出港準備のために機関室の機関始動用電源を入れようとして同室をのぞくと浸水していた。 本船は、僚船のポンプで海水が排出され、機関室内の点検を行ったところ、主機減速機潤滑油冷却器の冷却海水出口側配管のゴム製管継手に亀裂が生じ、亀裂箇所から海水が噴出していた。 本船は、同亀裂箇所が修理されたのちに僚船にえい航され、宮城県女川町女川港に回航された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西北西～西南西、風力 1～2 海象：平穏
その他の事項	本船は、主機減速機潤滑油冷却器が、喫水線より下方に配置され、同冷却器の冷却海水が船底弁から主機の冷却配管系統を通して分岐し、同冷却器を経て船尾管に注水され、船尾管を冷却したのち、排出されるようになっていた。 本船は、船長が、04時30分ごろ、機関室に入って機関始動用の電源を切ったとき、同室に異常がないことを確認していた。

	<p>本船は、主機減速機潤滑油冷却器の冷却海水出口側配管のゴム製管継手を12年間継続使用していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり あり なし</p> <p>本船は、大須漁港に04時30分ごろ帰港して停泊し、船長が、16時30分ごろ出港準備を行おうとした際に機関室への浸水に気付いたので、この間において、主機減速機潤滑油冷却器の冷却海水出口側配管のゴム製管継手に亀裂が生じたことから、海水が船底弁又は船尾管から冷却配管系統を通過して亀裂箇所から噴出し、機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、主機減速機潤滑油冷却器の冷却海水出口側配管のゴム製管継手が、長期間交換されなかったことから、劣化して亀裂を生じたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が大須漁港に停泊中、主機減速機潤滑油冷却器の冷却海水出口側配管のゴム製管継手に亀裂が生じたため、亀裂箇所から機関室に浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴム製管継手等は定期的に点検して交換すること。 ・停泊中は、船底弁など浸水する可能性のある弁を閉鎖すること。 	